

加齢性難聴者の補聴器購入の助成を求める請願

町田の国保・医療をよくする市民の会

【請願趣旨】

少子高齢化社会に突入した日本では、社会の活性化には高齢者の社会参加がこれまで以上に活発にならなければなりません。しかし、加齢性難聴による機能低下は、日常生活が不便になりコミュニケーションを困難にするなど生活の質を落とす要因となり、うつや認知症の危険因子となっています。政府が2015年に策定した「新オレンジプラン」の中でも、認知症を引き起こす危険因子として加齢や高血圧の他、難聴も挙げられています。

日本の難聴者率は、欧米諸国と大差ありませんが、すでに補聴器購入に対しての公的補助制度がほぼ確立している欧米諸国に比べて極めて低い。そのため補聴器の保有率は、2018年に日本補聴器工業会が行った調査によるとイギリス47.6%、フランス41%、ドイツ36.9%、アメリカ30.2%に比べて日本は14.4%にすぎません。日本の保有率の低さは、補聴器価格が片耳当たり概ね10～30万円の高額で、保険適用がなく全額自己負担という実態が原因として考えられます。

高齢になっても生活の質を落とさずに心身とも健やかに過ごすことができ、認知症の予防、ひいては健康寿命の延伸、医療費の抑制にもつながるため、東京都の補助事業を活用して、町田市として早急に高齢者補聴器購入費の助成を以下の事項を要望いたします。

【請願項目】

- 1.加齢性難聴は本人が気づきにくいいため聴力検査・検診制度を創設して下さい。
- 2.加齢性難聴者の補聴器購入または現物支給について、町田市独自の公的補助制度を創設して下さい。